

子育ての合間にひと息ついて  
あなたのための時間を過ごしませんか？  
映画や音楽の世界へ、しばしの旅のあととはまた、  
子どもと一緒に時間を満喫できるはず！

**凛**とした姿でカメラをかまえる映像作家・今村彩子さん。右下の写真は、現在制作中の長編ドキュメンタリー映画「珈琲とエンピツ」撮影中の姿です。生まれながらろう者の今村さんは、「社会から否定され傷つけられるような気がして、頑なに手話によるコミュニケーションにこだわることで、逆に武装してきた」といいます。

そんな今村さんにひとつの転機が訪れます。それは同じろう者でありながら、手話だけでなく、声も出してイキイキと会話をする、サーフショップ店長の太田辰郎さんとの出会いでした。太田さんのビッグスマイルに惹かれ、今村さんは取材をはじめました。

## ／ 観どころ ／

**太田さんのお店は、笑顔が生まれる場所！**

映画の主人公・太田さんは、もともとサーフボード職人。ボードの制作や修理などを行っていましたが、4年前、サーフィン関係の商品などを扱うお店をオープン。

「太田さんは、ろうであることが当たり前で、損だと思っていないんです。聴者のサーファーのお客さんたちも、明るい人柄の太田さんを慕い、身振りや筆談で会話をしながら、「たつりん」と親しみを込めて呼んでいます。将来パーをひらくことが夢だというひとが、太田さんに相談をしに来たりもするんです」

太田さんの心地よいお店の日常

風景と海、そんな映像からわたしたちも元気をもらえそうです。

／ メッセージ ／  
**海を愛するものは、みんな同じ**

取材を通して、サーフィンを愛するひとたちのこんなことばが今村さんのここに残りました。

「波乗りを愛するひとは肌の色も宗教もことばも文化も関係ない。海に行けば、皆、同じだ」

コミュニケーションに大切な「伝えたい」というところ。今村さんは、映画を通してまさにそれを「伝えよう」としています。

「この作品を、手話を知らない聴者や、ろうの子どもたちに見てほしいです。みなさんが、ろうの子どもたちと接する機会があったら、ぜひコミュニケーションをたのしんで。友だちからはじめることが、真の理解につながるはずですよ」

「珈琲とエンピツ」  
静岡県のはずれにあるサーフショップとハワイアン雑貨店「Surf House Ota」。2007年オープンしたこの店の主人、太田辰郎さんはろう者。なかなかお客さんが集まらない日が続き、どうしたら聴者のお客さんを引きつけられるのか太田さんは悩む。「そうだ！お客さんに珈琲を飲んでもらおう！」そうして、珈琲は、ひととひととの縁をつなぎはじめた……。

監督…今村彩子 / 7月下旬完成予定  
／公式サイト <http://coffee-to-enpitsu.com/> / 〈問〉e-mail [studio\\_aya\\_ai@yahoo.co.jp](mailto:studio_aya_ai@yahoo.co.jp) / FAX 052-621-9670 / ＊ひと口500円からの映画制作費スポンサー「500円スポンサー」を募集中！詳しくは公式サイトをご覧ください。



写真は、太田さんに取材をする今村さん。©2011 studio AYA

## 大切なのは、伝えたいという気持ち

ことばや表情、さまざまなコミュニケーションの方法があるけれど、それらは手段であって、目的ではない。ろう者の映像作家・今村彩子さんの最新作は、ことばを超えて、こころを伝え合うひとびとが主人公です。

お話\* 今村彩子さん (映像作家)



いまむら・あやこ 映像作家。1979年、愛知県生まれ。名古屋学院大学と愛知学院大学で講師をする一方、ドキュメンタリー映画を制作。国内だけでなくとどまらず、アメリカやカナダ、韓国など海外にも取材に訪れ、自主上映や講演活動も積極的に行っている。  
<http://studioaya.com/>